

**PD2-1 中節骨基部骨折(PIP背側脱臼骨折)：創外固定を中心に**

Fracture of the base of the middle phalanx (PIP dorsal fracture-dislocation) : Focusing on the external fixator.

内藤 聖人<sup>1,2</sup>, 山本 康弘<sup>1</sup>, 川北 壮<sup>1,2</sup>, 鈴木 崇丸<sup>1,2</sup>, 今津 範純<sup>1</sup>, 川村 健二郎<sup>1</sup>, 石島 旨章<sup>1,2</sup>  
<sup>1</sup>順天堂大学医学部整形外科学講座, <sup>2</sup>順天堂大学大学院医学研究科 整形外科・運動器医学

PIP関節脱臼骨折に対する創外固定はLigamentotaxisの原理を利用し、PIP関節の適合性維持と早期可動訓練を実現することが治療の目的となる。一方、牽引のみではPIP関節背側脱臼の制動が困難な症例が散見される。中節骨関節面の粉碎の程度や、Hastings分類に基づく掌側骨片の大きさなどさまざまな要因が考えられる。本発表では、PIP背側脱臼骨折に対する創外固定による手術治療について、その適応と実際について報告する。

**PD2-2 新鮮PIP関節背側脱臼骨折に対するプレート固定**

Plate fixation for dorsal fracture-dislocation of the proximal interphalangeal joint

白川 健

さいたま赤十字病院 整形外科

演者らは、過去13年間に45指の新鮮PIP関節背側脱臼骨折(PIP DFD)を経験した。当初は観血的整復+伸展ブロックを行っていたが、亜脱臼の再発など成績不良例が多くみられたため、現在はプレート固定を行っている。本研究では、プレート固定を行った24指の治療成績および問題点、成績不良因子について検討した。治療成績は概ね良好であったが、受傷から手術までの待機期間が2週以上の2指で亜脱臼が遺残した。

**PD2-3 PIP関節脱臼骨折に対するロッキングプレート固定術**

Locking plate fixation for proximal interphalangeal joint fracture dislocations

安井 行彦<sup>1</sup>, 片岡 利行<sup>2</sup><sup>1</sup>JCHO星ヶ丘医療センター 整形外科, <sup>2</sup>堺市立総合医療センター整形外科

PIP関節内骨折で脱臼を伴う骨折に対してプレート固定を行った20例の治療成績を報告する。骨折型は掌側脱臼骨折10例、背側脱臼骨折10例で、完全関節内骨折10例、部分関節内骨折10例であった。PIP関節の平均可動域は屈曲82°、伸展-5°であった。骨折型別で評価すると完全関節内骨折例は屈曲67°、伸展-5°で部分関節内骨折例は屈曲97°、伸展-5°であった。完全関節内骨折例は変形残存例が多く可動域も不良であった。

**PD2-4 当科における手指PIP関節骨折に対する治療戦略—低侵襲かつ早期運動療法をめざして—**

Our treatment strategy for PIP joint fractures of the hand -Minimally invasive and early exercise therapy-

鳥谷部 荘八<sup>1</sup>, 三浦 孝行<sup>1</sup>, 小曾根 英<sup>1</sup>, 岡田 誉元<sup>1</sup>, 天羽 健一<sup>2</sup><sup>1</sup>仙台医療センター 形成外科手外科 東北ハンドサージャリーセンター, <sup>2</sup>石巻赤十字病院 形成外科

手指PIP関節内骨折は掌側板剥離骨折、PIP関節の背側脱臼骨折、掌側脱臼骨折、基節骨骨頭骨折などがあり、それぞれ病態が異なる。術式としては低侵襲で解剖学的整復位と固定性が得られ、早期運動が可能であることが重要である。我々の施設では骨折形態により創外固定牽引と鋼線固定による（必要に応じ軟骨移植も併用）関節面の整復を可能な限り行い、良好な結果を得ている。

---

## PD2-5 手指基節骨単顆部骨折の治療

Treatment of unicondylar fractures of the proximal phalanx

勝田 康裕<sup>1</sup>, 関谷 勇人<sup>1</sup>, 岩田 英敏<sup>1</sup>, 柴田 淳<sup>1</sup>, 岡本 秀貴<sup>2</sup>, 川口 洋平<sup>2</sup>

<sup>1</sup>JA愛知厚生連海南病院 整形外科, <sup>2</sup>名古屋市立大学 整形外科

比較的稀な手指基節骨単顆部骨折16指において、最終観察時%TAMと骨折型、各骨折型における治療法、Kirschner鋼線の使用本数との関連について検討した。手術例では、1本だけのKirschner鋼線を用いた症例の成績が最も劣っており、multiple pinningによる手術例では、諸家の報告同様良好な成績が得られた。しかし本骨折では骨片が小さいため、Kirschner鋼線の刺入位置や刺入する鋼線の太さについても考慮する必要があると考えられる。

---

## PD2-6 新鮮基節骨骨頭骨折の治療経験

Treatment of acute proximal phalangeal head fracture

加藤 知行, 岡崎 真人, 田崎 憲一

荻窪病院 整形外科

当院で手術加療を行った新鮮手指基節骨骨頭骨折31例の特徴、治療成績について調査した。アプローチは背側あるいは側正中アプローチが選択され、固定方法はKirschner鋼線、スクリュー、プレートあるいは創外固定およびその組み合わせが選択されていた。術後感染をきたした症例が1例、骨吸収像がみられた症例が9例、授動術を要した症例が7例存在した。骨吸収がみられた症例や小指の症例はPIP関節の可動域が悪い傾向があった。